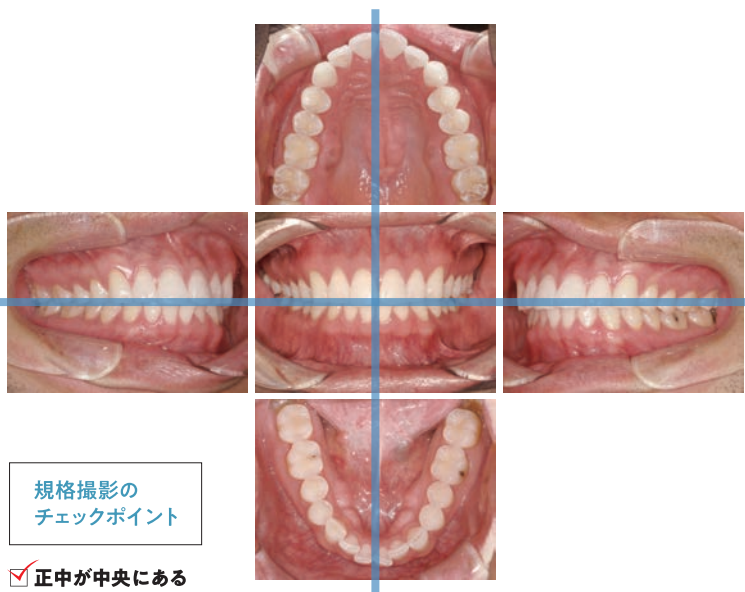


5枚法撮影のポイント

日頃の診療やスタッフ教育などでも活用できる!

ポイントを分かりやすく、動画(QRコード)や画像でご紹介。



規格撮影の
チェックポイント

- 正中が中央にある
- 最後臼歯まで写っている
- 左右が均等である
- 実像が入っていない

はじめに

口角鉤

口腔内に入れる際の滑りをよくするため事前に濡らしておく。口唇が乾燥している場合には、ココアバターやワセリンなどで保護する。



ミラー

あらかじめミラーを人肌程度に温めておくことで曇りを防ぐ。



POINT 1 正面観



動画でまとめて
Check!
(約2分40秒)



口角鉤の持ち方

口角鉤は横に引っ張り、少し手前に膨らませる。



【使用製品】
口角鉤A(松風)

カメラの位置

咬合平面と口角鉤の持ち手の中心が一直線になっているかを確認し、カメラを構える。



POINT 2 側方面観



動画でまとめて
Check!
(約2分)



口角鉤の持ち方

撮影側…後方にしっかりと引く。
反対側…口角鉤がかかる程度にし、少し手前に引く。



【使用製品】
撮影側：口角鉤P(松風)
反対側：口角鉤A(松風)

カメラの位置

2~4番の歯列に対して垂直にカメラを構える。



POINT 3 咬合面観



動画でまとめて
Check!
(約4分30秒)



口角鉤の持ち方

口唇が歯面に被らないように、軽く引く。フック型の口角鉤はミラーにぶつかりにくく、筋肉も緊張させにくい。



【使用製品】
口角鉤A(松風)ハンドル後部
※口角鉤C(松風)のハンドル後部も
使用可能

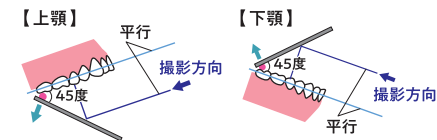
ミラーとカメラの位置

ミラー

先端を最後臼歯咬合面から離し、咬合面に対して45度の角度で固定する。

カメラ位置

歯列の延長線と平行な方向から撮影する。



補綴装置の製作と撮影に役立つコツ

歯科医院 ⇄ 歯科技工所のコミュニケーションをスムーズに！

アイスペシャルの活用法を画像でご紹介。

おすすめモード

シェード抽出モード

シェードテイキング画像を撮影する際に、無彩色にした画像の撮影が可能。

(アイスペシャルC-Vから1回の撮影で3種類の画像撮影が可能に)



テカりの少ないカラー画像



歯牙以外無彩色の画像



すべて無彩色の画像

歯冠色以外を無彩色に変換することで、目視評価時に色の錯覚(色相対比)が起きにくくなる。



歯肉の色の影響を排除すれば見え方が異なる。

より補綴装置がシェードマッチングしやすくなる。

テレマクロモード

撮影倍率を拡大して反射の少ない写真撮影が可能。

歯牙の色調や形状などの確認も行いやすい。

※撮影時には付属のクローズアップレンズの装着が必要。



より歯牙の特徴を掴んだ補綴装置が製作できる。

フラッシュ発光の選択について

片側発光

フラッシュ両側発光で撮影すると陰影がなくなり、立体感のない画像になることがある。(石こう模型は色の変化が少ないため) その場合は解決策の1つとして、フラッシュを片側発光にする。



両側発光



右側発光



左側発光

片側フラッシュ発光可能な撮影モード
標準、ミラー、ホワイトニング、テレマクロ、シェード抽出

内側・外側発光

内側・外側のフラッシュが選択可能。

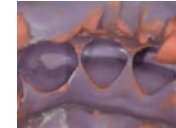
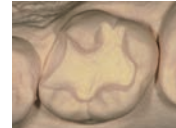
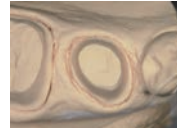
★外側フラッシュ…テカりを抑えたい被写体の撮影におすすめ。

★内側フラッシュ…窩洞内面の撮影におすすめ。

外側フラッシュ



内側フラッシュ



外側フラッシュ発光可能なモード
低反射、ホワイトニング、テレマクロ、シェード抽出

内側フラッシュ発光可能なモード
標準、オベ、ミラー、テレマクロ、顔貌

※被写体の状態・形状によって反射は変わるため、適宜フラッシュを選択して撮影を行う。

※フラッシュの切り替えは、「F1キー」+「ダイヤルキー」を回す。

補綴装置撮影のおすすめ倍率(目安)

標準モード



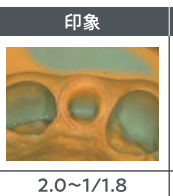
低反射・シェード抽出モード



テレマクロモード(外側フラッシュ発光)



テレマクロモード(内側フラッシュ発光)



アイスペシャルC-V
サポートサイト



取扱説明書や動画マニュアルもこちらからご確認いただけます。